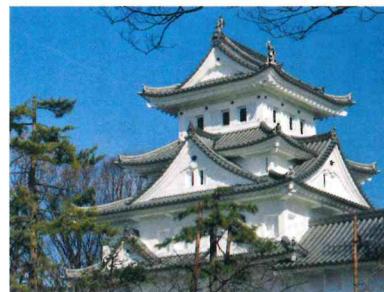


奥の細道むすびの地 大垣 城下町大垣観光マップ



6 大垣城(郭町2)
大垣城は、天文4年(1535)宮川吉左衛門尉安定が築城した(明応9年竹腰五郎尚綱の築城とも伝えられる)といわれ、水門川の流れを利用して築かれた。闇ヶ原の戦いのおりには、西軍石田三成の本拠地ともなった。寛永12年(1635)戸田左門氏鉄が入城し、その後、11代にわたる善政が続いた。



1 挖抜井戸発祥の地(岐阜町)
天明2年(1782)岐阜町のこんにゃく屋七が、穴を掘り竹を打ち込むと水が噴出したという井戸。



2 大垣藩校敬教堂跡(東外側町2)
第8代藩主戸田采女正氏庸は藩士の子弟を教育するため天保11年(1840)辰之口門外に学問所を創設し、のちに致道館、さらに敬教堂と改称した。第10代杉のとき規模を拡大し多くの学者・文人を生んだ。



3 八幡神社(西外側町1)
中世には大井荘と呼ばれ東大寺領であったため東大寺の鎮守を勧請して建てられた。また、戸田左門氏鉄が八幡神社を再建整備したり、城下町の町民が喜び軸を造って曳いたのが、5月に行われるユネスコ無形文化遺産大垣まつりの軸の起源だと言われている。



4 圓通寺(西外側町1)
戸田氏の菩提寺として近江膳所ヶ崎で創建され、その後尼崎を経て寛永12年(1635)現在地に建立された。



5 全昌寺(船町2)
全昌寺は初代大垣藩主戸田氏鉄の奥方、大誓院(徳川家康の姪)が建立したものである。幕末の大垣藩老小原鉄心や鉄心が師と仰ぎ親交を重ねた住職鴻雪爪の墓がある。また新撰組隊士市村辰之助、鉄之助兄弟の墓もある。



13 大垣城大手門跡(郭町2)



水門川遊歩道四季の路

かつて、水門川は大垣城の外堀であった。先の大戦で大垣城も町並みも焼失したが、水門川の流れが往時を偲ばせている。現在、愛宕神社から奥の細道むすびの地までの2.2kmの川沿いは、「奥の細道」の旅で芭蕉が詠んだ句碑が立てられ「ミニ奥の細道」として、芭蕉の足跡をたどることができ、また遊歩道「四季の路」として、四季折々の草木が道行く人の目を楽しませてくれる。

美濃路
水門川遊歩道
四季の路



12 奥の細道むすびの地記念館(船町2)
俳人・松尾芭蕉は、元禄2年(1689)の秋、約5か月の「おくのほそ道」の旅をここ大垣で終えた。そのおり、芭蕉は「蛤のふたみに別行秋そ」と詠んで、水門川の船町港から桑名へ舟で下った。



7 郷土館(丸之内2)
戸田公入城350年の記念事業として建設された施設で、歴代の大垣藩主戸田公の顕彰と郷土の先賢を偲ぶことができる。

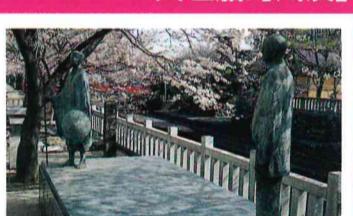


8 守屋多々志美術館(郭町2)
守屋多々志美術館は、日本画の巨匠、歴史画の第一人者として活躍された故守屋画伯の作品を一堂に展示している。守屋画伯は、大垣市船町出身で、大垣市の栄誉市民であり、文化勲章を受章された。



9 美濃路大垣宿本陣跡(竹島町)
中山道と東海道を結ぶ美濃路の大垣宿本陣跡。また明治天皇は、明治11年(1878)に東海・北陸御巡幸の帰途、美濃路大垣宿の日本陣の飯沼右衛門邸に泊まれた。

**国名勝
「おくのほそ道の風景地
大垣船町川湊」**



10 奥の細道むすびの地(船町)



11 住吉燈台と船町港跡(船町)
俳人・松尾芭蕉は、元禄2年(1689)の秋、約5か月の「おくのほそ道」の旅をここ大垣で終えた。そのおり、芭蕉は「蛤のふたみに別行秋そ」と詠んで、水門川の船町港から桑名へ舟で下った。



12 無何有在大醒樹(船町2)
大醒樹は、大垣藩の藩老小原鉄心が安政3年(1856)に大垣城下の北、林村(現・大垣市林町)に設けた別荘「無何有荘」の一亭であり、藁の網代天井や紅殻塗装など随所に中国風意匠を取り入れられており、南側の衝立には、江戸時代には珍しい「ギヤマン」と呼ばれた色ガラスがはめ込まれている。



大垣城と城下町

大垣城は、天文4年(1535)、宮川吉左衛門尉安定が築城した(明応9年竹腰彦五郎尚綱の築城とも伝えられる)といわれる。天文年間においては、本丸と二の丸をもつ小城であった。その後、永禄2年(1559)、氏家常陸介直元が城主のときに城の土壘を高く堀を深くし、櫓及び縄塗を築いて城郭を堅固にした。天守閣は慶長元年



~大垣城七口之門~

大垣城は、南と東を大手、北と西を搦手とする要害堅固な城郭であり、惣郭には、大手、南口、柳口、竹橋口、清水口、辰之口、小橋口の七口之門があった。
●大手門 □南口門 ▲柳口門 ○竹橋口門 ◎清水口門 ◆辰之口門
■小橋口門

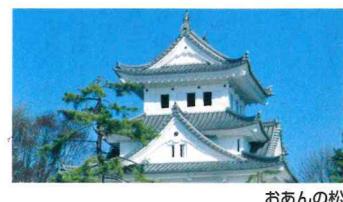


関ヶ原の戦い

慶長5年(1600)9月15日、霧が晴れた午前8時すぎ、決戦の火蓋が切られた。一進一退の攻防が続き、勝敗は正午になっても決せず、焦った家康は内応の約束のある小早川秀秋を動かすために、松尾山に向かって鉄砲を一斉射撃した。切羽詰った秀秋は西軍にに対して攻撃するよう全軍に指令し大谷吉継隊に攻めかかった。大谷隊はよくこれを防いだが、脇坂ら4隊の寝返りにより防ぎきれず自害した。石田隊はよく東軍の攻撃を防いで戦ったが、小西・宇喜多の敗走のちついに潰滅し三成は伊吹山に逃走した。こうして午後2時には天下分け目の戦いは東軍の勝利で終わった。西軍の本隊が関ヶ原へ移動したのちの大垣城は三成の妹婿福原長堯らが7,500の兵で守り、関ヶ原の戦い後まで戦った。このとき二之丸多門は、大垣の土沼波、松井ら七騎が防戦して守ったのでうちに七騎多門と称した。このような中、徳川方から使者がきて降伏するように告げたので福原は9月23日に大垣城を開城した。

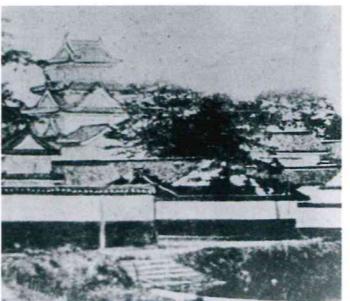


～おあんの松～
少女おあんは父山田去曆らと三成に
属し、大垣城に築城していた。落城不安



おあんの木

、寛永12年(1635)、戸田左門氏鉄が攝津国尼崎から移封されると以降11代にわたる善政が続いた。その間、寛永18年(1641)、京口、名古屋口の総門を修築し、同19年、東大手石垣と枡形、正保4年(1647)、二の丸石垣を改築。慶安元年(1648)には天守閣、櫓を修築し、翌2年、太鼓門の石垣、枡形と太鼓門隣の石垣、櫓も完成した。このように、大垣城は水門川、牛屋川(外堀)に囲まれ、惣郭は、大手、南口、柳口、竹橋口、清水口、辰之口、小橋口の七口之門で警固された要害堅固な城であった。



明治初年の大垣城。昭和11年に国宝に指定されたが、昭和20年に戦災で焼失。昭和34年、外観をそのままに再建された。



杭瀨川

～関ヶ原の戦いの前哨戦～ 杭瀬川の戦い

西軍石田三成は、慶長5年(1600)8月10日、大垣城に入城し西軍の本拠地とした。一方、東軍徳川家康は9月1日、江戸城を出発し、13日に岐阜に着き14日の未明に出発し、正午に岡山の本陣に入った。家康到着の知らせが大垣城に入ると西軍の士卒が動搖し始めたので、島左近勝猛は今一戦して西軍の威勢を示さねば士気がア



野一色頼母の井

がつるるある日、東軍から矢文が届き「去暦は家康様御手習師匠であったので、逃す。」と伝えた。おあんは父母らと堀の近くの松から堀へ下りたらい舟に乗り逃れた。そののち、その松を誰言うなく「おあんの松」と愛称した。

戸田氏鉄入城

戸田左門氏鉄(1576~1655)は、元和2年(1616)、2万石の加増を受け攝津国尼崎に移封された。尼崎時代に治水事業、大阪城の修造に大功を立て、寛永12年(1635)7月28日、美濃国大垣城に移封され、美濃国石津、多芸、不破、安八、池田、大野、本巣郡の内で10万石を封与された。8月、氏鉄は中山道を東下し、赤坂、笠縫を経て大垣城へ入城した。入部後、新田の開発、治山治水事業、文教の振興などに尽くし、藩政の基礎を築いた。その後、戸田氏大垣藩は西郷遭難に際して



関ヶ原合戦図絵巻 遠坂仲雍 筆(岐阜市歴史博物館所蔵) 上/石田三成本陣 下/徳川家康本隊

歷代大垣城主

年 代	城 主	年 代	城 主
天正	池田紀伊守恒興	寛永	元年
	池田三左衛門輝政	9年	松平因幡守憲良
	三好孫七郎秀次		岡部内膳正長盛
	木下美濃守秀長		岡部美濃守宣勝
	13年 加藤作内光泰		松平越中守定綱
	一柳伊豆守直末		戸田左門氏鉄
	17年 羽柴少将秀勝		戸田采女正氏信
	18年 伊藤長門守祐盛		戸田肥後守氏西
	慶長 4年 伊藤彦兵衛盛正		戸田采女正氏定
	5年 関ヶ原合戦・西軍	貞享 元年 享保	戸田伊勢守氏長
	石田三成の本拠地		戸田采女正氏英
	6年 石川長門守康通		戸田采女正氏教
元和	12年 石川日向守家成	文化 天保	戸田采女正氏庸
	14年 石川主殿頭忠総	安政	戸田采女正氏正
	2年 松平甲斐守忠良	慶応	戸田采女正氏共

監修／清水 進

ミニ奥の細道周遊マップ



始	矢立初の司御子住 (東京都足立区荒川区)	行春や島嶼魚の 目・火
		「裏の細道」旅立日の句。 千代に親しい日々に見送られた 折に詠み、「矢立の初め」(旅の 句の書き初め)と記されています。
1	日光 (栃木県日光市)	あなたふと青葉若葉の 日の光
2	遊行柳 (栃木県那須町)	あなたふと青葉若葉の 日の光
3	須賀川 (福島県須賀川市)	田一枚植て立去ル柳かな
4	磐島 (宮城県名取市)	世の人の見付ぬ花や 軒の葉
5	平泉 (岩手県平泉町)	笠塙はいゝこさ月の ぬかり道
6	封人の家 (山形県最上町)	夏紳や兵共か夢の跡
7	尾花沢 (山形県尾花沢市)	蚤亂馬の尿する枕もど
8	立石寺 (山形県山形市)	涼しきそゑ愁相にして ねまる也
9	本舎浦 (山形県鶴岡市)	閑さや岩にしみ入 蟬の声
10	出羽三山 (山形県鶴岡市)	さみたれをあつめて早し 最上川
		有難や雪をかほらす 南谷
11	酒田 (山形県酒田市)	暮々日を海に入れたる 天河
12	越後 (新潟県上越市)	蒸海や佐渡によこたふ
13	市場 (新潟県糸魚川市)	一家に遊女も寝たり 萩と月
14	郡古 (富山県射水市)	わせの香や分入右は 秋の風
15	金沢 (石川県金沢市)	あかーと日は難面も しほらしき名や小松吹 萩薄
16	小松 (石川県小松市)	石山の石より白し 秋の風
17	那谷寺 (石川県加賀市)	庭掃て出は寺に散柳
18	加賀金澤寺 (石川県加賀市)	名月や北国日和 定なき
19	敦賀 (福井県敦賀市)	さひしさやすまに勝ちらる 浜の秋
20	色の浜 (福井県敦賀市)	平寂してしまず西伊勢山 います旅の終局新ただ出弟の 地であります